

2 番 池 谷

一般質問通告書にのっとり質問させていただきます。

受付番号4、質問議員2番、池谷仁宏。

件名。1、「今後の文化継承で町の活性化を」。

2、「より踏み込んだ定住対策に向けて」。

1、10月に開催されたユネスコ無形文化遺産「山北のお峰入り」には多くの方々が訪れ、駅前での道行きには約1,500人も人が集まるなど、駅前商店街のにぎわいには驚くものがあり、経済効果も非常に大きかったと思われる。これからも町にある文化、伝統、芸能をしっかりと継承していき、町の活性化に活用すべきであると考え、質問する。

①山北のお峰入りの継承について具体的な取組は。

②文化・芸能・伝統を町へ生かす方法や取組について、どのように考えているか。

2、お試し住宅の利用人数は増加しているが、令和4年度は移住につながった実績がない。空き家ツアーや移住セミナーを実施し、関係人口増加に努めているが、なかなか成果が現れていない状況である。そこで、より踏み込んだ対策をしてみてはと考え、質問する。

①従来の対策を検証した上で、さらなる町活性化につながるような取組を講じているか。

以上。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、池谷仁宏議員から「今後の文化継承でまちの活性化を」「より踏み込んだ定住対策に向けて」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の「今後の文化継承でまちの活性化を」について、1番目の御質問の「山北のお峰入りの継承について具体的な取組は」についてであります。10月8日に開催された山北のお峰入りユネスコ無形文化遺産登録記念公演は、町外や県外から初めてお越しいただいた方も多く、「山北のお峰入り」「山北町」の認知度は確実に上がったのではないかとうれしく思っております。

これは、ユネスコ登録が決定してからお峰入り保存会が会議を重ねた熱意

と、演者の皆さんも日々練習に励まれたたまものであると思っており、4月には観光協会、商工会及び園や学校など各関係団体で構成した「連絡協議会」を立ち上げ、相互に連携を図ったことでより協力体制が強化され、町が一つになったことも大きな要因となりました。

山北のお峰入りは、おおむね5年ごとで次回は令和10年に開催されると伺っておりますが、連絡協議会は継続したいと考えております。保存会においても、5年後の公演を見据えての演者の育成など準備をお願いするとともに、それぞれの役割の中でさらなる強固な協力体制を整えてまいりたいと考えております。

次に、2番めの御質問の「文化、芸能、伝統を町へ生かす方法や取組について、どのように考えているか」についてであります。本町は山北のお峰入りなどユネスコ無形文化遺産をはじめ、国・県の指定を受けた魅力ある文化財の宝庫であります。近年、国においても文化芸術活動や文化財を単に「保存」するのではなく、観光面でも目を引くよう最大限に「活用」する方針を打ち出しております。SNSやメディアを通じた情報発信、そして町外での効果的なPR活動など普及・啓発に関わる取組を行うことは、これからの本町にも必要であると考えております。

このため、町では第6次総合計画においても、歴史や文化遺産と観光事業を連携させた取組を検討していくと位置づけ、引き続き文化財の所有者や保護団体との連携を継続しつつ、課題の洗い出しや先行事例の調査などを行い、町の活性化や観光振興へつなげる方策を検討してまいります。

次に、2点目の「より踏み込んだ定住対策に向けて」についての御質問の「従来の対策を検証した上で、さらなる町活性化につながるような取組を講じているか」についてであります。本町の人口推移につきましては、転入・転出の社会増減は近年差が少なくなっている状況にありますが、自然増減においては出生数と死亡数の差が大きい状況にあり、町では第3次定住総合対策事業大綱に基づき、全庁を挙げて人口増加対策を図っているところですが、依然として人口減少が続いている状況となっております。

移住・定住対策として取り組んでいるお試し住宅につきましては、平成28年度の開始から令和4年度までに累計で258人の方が利用され、そのうち8

人の方が移住し、2人の方が現在2地域居住をされております。

空き家見学ツアーにつきましては、平成22年度から令和4年度までに229人の方が参加し、そのうち24人の方が山北町へ移住をされている状況となっております。移住セミナーや移住フェアにつきましては、相談者がその後、お試し住宅の利用や空き家見学ツアーへの参加など、町へ興味を持っていた方もおられますが、山北町を移住先の一つの候補地として、訪れる方が多くいられます。

町では現在、東山北1000まちづくり基本計画において、住宅ゾーンの重点地域に位置づけている水上地区と尾先地区へ民間事業者による宅地開発の誘導を図る計画をしております。今後につきましても、現在策定作業を進めている第6次総合計画との整合性を図りながら、来年度改定を予定している第4次定住総合対策事業大綱の中に、今まで実施してきた事業の効果等を検証しながら、町の活性化につながるような施策を展開していきたいと考えております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 答弁ありがとうございました。

非常に、町としてしっかりとお峰入りを残していこうという姿勢が見えますので、ただ、やはりこれからの人口もそうですし、この町の在り方という中で、確実にこのお峰入りを残していく方法というものをもう少し踏み込んでお伺いをしたいなと思うんですが、どのようにこのお峰入り、特に演者の問題があると思います。町としてはどのように考えているのかお聞かせください。

議 長 町長。

町 長 今までずっと続けてきていただいたんですけど、私はユネスコの無形文化遺産の登録ということで、初めて場所も川村小学校にさせていただいたり、また有料の観覧席を設けたり様々な方法を取りました。中でも、山北町としては、やはり来ていただくために、SNSとか様々な媒体を使って広報したり、あるいはポスターを作ったりいろいろなことをさせていただきました。

結果から見ますと、アンケートの中では、やはり口コミがまず、で来られる方、それからポスターとかチラシとかそういったようなもので来られる方

がかなり多くて、思ったほどSNSとかそういうので来られた方の人数がちょっと少なかったかなというふうに思いますけれども、いずれにしても、今までのやり方以上のことをやって、皆さんに町外から約8割の方が来ていただいたというふうに認識しておりますので、これからはさらに町外の方、あるいは、またインバウンドの方に知っていただくようなことをやっていきたいというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 確かに、今回のユネスコ登録記念講演におきましては、非常に大きな効果があったと思います。しかしながら、このお峰入り、約700年続いてきました。これをしっかりと残していくという形をある程度見える形にしていかなければならないと思うんですね。その際に、このお峰入りだけ「山北のお峰入り」という形で名前がついているわけです。ですから、町として、本当にしっかりと、このお峰入りは残していくんだ、継承していくんだという姿勢を見せていかなければならない。その上で、先ほど最初の質問されました高橋議員の際にもお話がございましたが、若い世代に知ってもらい、地域全体で取り組んでいくんだというようなお話がございました。地域性というものを大切にしながら、町がどのように保存会に関わっていくのか。どういう形で支えていくのかというところを具体的に分かれば教えていただければと思います。

議 長 町長。

町 長 やはり、まず母体が保存会ということは間違いないというふうに思っています。ですから、町民の方がそれを演者として入っていただくことはもう全く問題はないというふうに思いますけど、しかし町外に住んでらっしゃる方も大勢いらっしゃいますんで、そういったようなことは当然町としては、そういった参加してほしいということは伝えようというか、広報しようというふうに思いますけど、しかし基本に上がるのは保存会がどのように考えていただけるかということだというふうに思いますんで、むやみやたらに募集しちゃって、募集して手挙げたけど、演者に加わらなかったというようなことになるとそれもまた問題だというふうに思いますんで、その辺は保存会と連絡を取りながら進めてまいりたいというふうに思っています。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷

おっしゃるとおりで、むやみやたらに多くの方にお声がけをして、演者を集めていくというのは、やはり私もこれは間違っていると思います。しかしながら、このお峰入りに関わりたいという方は非常に多くおいでだと思いますので、そのサポートの部分のようなものは、ぜひ町のほうでしっかりと協力をいただくのが一番いいんだろうと思います。

それを踏まえた上で、やはり700年続いたこの地域にありましたお祭りでございます。元は「共和のお峰入り」という名前でした。それが国指定の文化財の際にですか。「山北のお峰入り」に名前が変わったところです。やはりその地域でつくっていく、維持をしていくというのは前面に出していく中で、この地域の中では今まで出演した演者の家族だったり、親戚だったり、外にお住まいがあったにしてもそういう方たちに参加を促していくという作業が必要であろうと思います。それがひいては、将来的に関係人口ですね。今はここに住所がなくても、お峰入りに参加する。しかも血族、血縁の皆さんがこの地域に住んでいるということで確実な関係人口が増えていく。こうしたものをうまく活用しながら、そこをしっかりと町がサポートしていく。

ただ、それでも一つだけお峰入りの演技の中には、盆踊りという、どうしても若い方でないと私も振れません。盆踊りという若い方でないとできない演技があります。また、これは非常に多くの練習が必要になってまいります。そうした若い方の力を、このお祭りの維持のためにどのように活用していくのか。それを考えた際に、やはりこの町には県立の山北高校があるわけです。町のほうからも山北高校への助成はされているかと思いますが、そうではなく、お金の部分、助成の部分ではなく確実にこの町の文化、芸能、伝統を維持するための部のようなもの。研究会のようなものを立ち上げるというようなものを投げかけてはどうかと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

議 長

町長。

町

長

今初めて聞いたんで答えにはならないと思いますが、検討していかなくちゃいけない案件だとは思いますが、やはりいろいろな問題点も、当然山高となれば県立高校ですので、県の考えとか様々なものがあるでしょうから、その辺を協議しながら、もし可能であればそういったことも必要だろうというふうに思っています。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 お峰入りの話でさせていただいておりましたが、実はこの文化、芸能、伝統の継承というのは、このお峰入りだけではありません。ユネスコ登録されたものがお峰入りなので、一番今話題も豊富なものですからこちらを題材にして質問させていただいた次第ですが、例えば、先ほどこれはやはり高橋議員の質問の中での御答弁で、園・小・中で文化・歴史に興味を持つような取組を進めていくんだというようなお話がございました。

こうした点から見た際に、例えば山北の道祖神ですね。お子さんが今なくて非常に維持していくのも大変だろうというようなお祭りです。こうしたものにぜひ興味を持ってもらうというだけではなく、そうしたお子さんたちに参加をしてもらうという場の提供を学校でも幼稚園でも保育園でもこども園でも声をかけてやりたい方はどうでしょうかというような、このお祭りと子どもたちをつなげる、何でしょう、マッチングのようなものを町が主導でやってはどうかと思うんですが、その点はいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 先ほどのお峰入りの盆踊りの件、ありましたよね。山高へという。これも一つ方法だと思います。ただ、私なんか考えるのは、今、園・小・中で文化に対して、歴史に対して誇りを持つ。そういう子どもたちを育てたいということですので、いわゆる5年に1回だけの催しじゃなくて、日常的な、まあ日常までいきませんが、年々とか年に1回とか、そういった中で体験活動をするとか、そういうふうな積み重ねの中で山北にいる子どもたちが盆踊りに参加する。これも一つあるかと思う。単に山高だけじゃなくて。ですから山高も一つの選択肢であるというふうに思います。

ただ、そのところまだしっかり詰めてませんので、今後の中で進めたいなというふうに思っておりますし、今、御質問の道祖神。これについても、今かつては子ども会があって参加しておりましたけども、もう10年前に解散してしまいました。地区によってはそれが継続してやられると思いますけども、そういった地域の道祖神とかそういった面でそういうものがあるんだということで、そういったものを周知しながら子どもたちが理解しながら、これが大事なものだ。やっぱり代々継続されて引き継がれてきてるん

だという、そういった重みをやはり子どもたちが感じてもらえる。そういった形で、何らかの形でやる必要があるかというふうに思います。

そういう面では、今、先ほどの質問の中にもありましたけども、社会教育会議のほうに諮問のほうをしておりますので、そういった面でお峰入りだけの回答じゃございませんので、文化・伝統全てを絡めた中での御提言がいただけると思っておりますので、それを参考にしながらできることをしっかりとやっていきたいというふうに考えてございます。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 非常に前向きなお答えだと思います。やはりこの町が昭和30年ですか。町村合併がありまして、山北町になるには三保村、清水村、共和村、そして北足柄村字平山が入って今の町が形成されていると思います。その地域、地域に合った文化、芸能、伝統というのはしっかりと残していかなければいけないと思っておりますので、引き続きうまくこのお祭りを、町にあるこの文化財をしっかりと維持・継承できるように努めていっていただきたいと思っております。

また、次の質問の活用の部分に移らせていただきますが、活用を2月の11日に神奈川県主催の「リ・古典」というイベントが海老名市で行われます。町長いかがでしょう。「リ・古典」、町長、お峰入りで出演してみませんか。

議 長 町長。

町 長 一応、当日は体を空けるようにしておりますんで、当然伺うようには、今思っておりますけども、何に出るかとか、何を協力できるかというのは、まだこれからというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 実はこうしたトップセールスというのは、非常に重要なことだと私は思います。また聞いている話では、当日は黒岩知事もお越しになる予定であるというふうに伺っております。ぜひ、この町をユネスコ登録された町を代表するお祭りの一つでありますお峰入りに、ぜひ町長と県知事と、そしてできれば海老名の市長も一緒に参加をいただいて、道行きをやってみると非常に効果があると思います。ぜひ、その辺は前向きに考えていただければと思います。

また、このお峰入りの活用の部分に少しお話をさせていただきたいのです

が、令和9年度にスマートインターチェンジが開通されます。ぜひ、その式典の際にもお峰入りの道行きをやってはどうかと思うんですが、その辺はお考えはあるでしょうか。

議 長 町長。

町 長 令和9年のときは本当にまだ数年先ですので、そういったような仮に開通の式典のときに何をやるかはこれから中日本さんと詰めるということになりますので、当然そういうような案もその中に入ってくるというか、私のほうから申し上げるようにいたしますので、一つのあれになるんじゃないかと思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 イベントでの実はお峰入りというのは、活用方法がたくさんございまして、80人からなる行列で演技をされますが、切取りができるんですね。おかめならおかめの演技、盆踊りなら盆踊りの演技、そして山伏であれば山伏。いくつか切り取った演技ができます。それを踏まえた上で、2月の11日のリ・古典が終わった際には、一応、県のほうからの話では12着のレプリカの衣装がこちらのほうに寄贈されるというふうに伺っております。このレプリカを活用して、例えばですよ。道の駅で日にちは決めていいと思います。盆踊りのワークショップをやってみよう。体験をやってみよう。演技を見せてみよう。こうしたことにより、より多くの方がこの町に御来町されるんじゃないかと思うんですが、その辺の取組というのはお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 当然、そういったような様々な取組は、皆さん、保存会の方の協力がなければできませんので、そういった中では当然考えていきたいというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 ぜひどんどんと活用をして、町の活性化につなげていくということが非常に重要であると思います。もちろん、これはお峰入りだけではございません。ほかのお祭りもそうです。ただ、お峰入りが一番やりやすいであろうということは事実だと思しますので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思ます。

また、このお峰入りは、伝承公演としての継承の部分と、イベントとしての活用ですね。すみ分けができると思うんですね。この辺をどんどんうまく活用していくことがさらなる町の活性化にはつながるのではないかと私は考えております。また、その辺を踏まえた上で、このお峰入りですね。ふるさと納税の返礼品としての活用は考えていないでしょうか。

議 長 町長。

町 長 すばらしいアイデアだと思います。ぜひそういうことが可能であれば、ふるさと納税でもよろしいのではないかと思います。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 実は、国指定重要無形民俗文化財「尾張万歳」という、これは文化財なんですけど、愛知県のふるさと納税で使われてるんですね。寄附金額25万円。例えば、お峰入りを80人からの演技です。これをやる際に、例えばふるさと納税の寄附金額を300万円とか400万円でも、私いいと思うんですね。これやらないじゃない、やってみる価値があるということです。やってみたらどうだろうということなんですね。こういう取組により、町の財源もしっかり確保できる。そのためにユネスコの文化遺産を活用する。これ私すばらしいことだと思うんです。こういう考えはいかがでしょう、町長。

議 長 町長。

町 長 大変いいんじゃないかというふうに思ってます。私は、前からそういったようなほかのところが出せないようなふるさと納税というのは出してみる価値があるのではないかと。別にそれで集まるか集まらないかは分かりませんが、一応出してもらおう。皆さんがそれに興味を持っていただく。例えば、そういうふるさと納税のためにポータルサイトを開いたときにぱっと出してくれば、何だろうというふうに思っただけですから、そうすれば、別にお峰入りに寄附しなくても、ほかのものに山北町を見ていただいた中で寄附ができるんじゃないかというふうに思いますんで、私はよろしいんじゃないかと思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 町長がよろしいのではないかということなので、ぜひ前向きに検討いただきたいと思います。

ちょうど、この「寄附の流れ」というものを少しプリントアウトしてきましたので読ませていただきますと、こちらの尾張のほうでは、寄附前に尾張万歳保存会へ電話連絡し、日程調整してください。その上で、知多市の窓口
に寄附をお願いします。そして、その後は保存会に全部流れてくるわけですね。その後の動きにつきましては、こうした形を取っている自治体があるということは、やはり私たちはこれは国指定ではなく、ユネスコになるわけですから、非常に大きな効果が得られると思いますので、ぜひ町としても考えていただければと思います。

では、次に「従来の対策を検証した上で、さらなる町活性化につながるような取組を講じているか」。これ、定住対策でございますが、先ほども町長のほうからお話ございました。確かに、この町は移住者が非常に増えてきているなというふうに感じますが、どうしましても、移住者が増えることに……。ごめんなさい。非常にいいことなんですけれども、やはりその目的をしっかりと把握しなければならぬと思います。9月の定例会の際に、「何がよくてこの町に移住してくるんでしょうか」というふうな質問に対しまして、「人がいいから移住するんだ」。「この町は人がいいからだ」というふうなお答えがございました。その「人がいい」というのは、一体どのように発信をしているのかお聞かせいただければと思います。

議 長 定住対策課長。

定住対策課長 移住された方からの聞き取りになります。町のほうも移住された方を対象とした移住者交流会、また、こちら答弁のほうにあるんですけども、空き家見学ツアーの際に移住された方にゲストとして出演していただきまして、その中で、なぜ山北町がというような話の中で、やはり自然というのはキーワードで出てきます。というのは、周り見ると同じような自然のところは非常に多いかなというふうに思ってます。やはり来たときに、町を訪ねてそのところを観光等歩いたときに、周りの方が非常に優しく声をかけてくれるというふうなところが一つあるところ。また移住した後に、近所の方が「野菜食べなよ」とか、非常に優しくしてくれて温かく迎えていただけると。

やはり田舎、まあ田舎という言い方がいいか分からないんですけども、山北町、都会のほうから田舎に来るときに非常にやっぱり受け入れてくれても

らえるのかというところが非常に不安にいた方もおられるそうです。そういうところで、周りの方からそういうふうな温かい声が非常によかったというところで、「人がよい」というようなところで回答いただいておりますので、前回そのような回答をさせていただいております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 分かりました。これ実績の上でというふうな形だと思います。

また、この町に、もう一つ伺いたいんですが、移住してくる方の目的ですね。人がいいからというのは先ほどのお話で分かりました。ただ、夫婦で移住してくる。家族で移住してくる。仲間同士というのではないと思いますけど、移住される方の目的というのは、一体どこまで町として把握されているのか。例えば、夫婦で好きなことをして、夫婦2人だけでひっそりと暮らしたいんだという方も中にはいるでしょう。また逆に、夫婦で地域活動をしながら、その地域を全面に楽しみながら生活をしたいんだという方もいるでしょう。この辺はどれだけの移住者の目的というのを把握しているのか。大まかで構いませんので、お示しいただければと思います。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 移住をされたときに、町民税務課のほうで手続をしていただくんですけども、そのときに移住者アンケートというのをお願いしております。こちらもお願いですので、皆さんが必ずやっただけとは限らないんですけども、そのアンケートの中に転入理由という選択肢がございます。その一つが「仕事の都合」というのがございます。それが大体4割ぐらいが仕事の都合というのがございます。それ以外には「就学」、あと「結婚」。それと「リタイア後の新天地を求めて」。それと、あと「その他」というのがございます。こちら40%ぐらいなので、ちょっと「その他」はちょっと細かくはしてないんですけども、一応このような形の大きなすみ分けでは聞いております。実際に、世帯別というのはいちよつとまだ情報をアンケートには入ってませんので、夫婦だけなのか子育てというのはいちよつと分からないような状況になっております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 ありがとうございます。

今まで、従来の形での定住対策から、またさらにもっと面白く、わくわくするような定住対策、こんな人材を集めたらいいんじゃないかというようなことでお話をさせていただきたいと思うんですが、住んでほしいが前面に出るのではなく、町民数を増やしたいんだではなく、何かをしたいんだという方呼び寄せのべきだと私は思うんですね。こうした方法も必要だと思います。特に、私は6年ほど前からずっと言っていたんですが、この町で起業したいという方を集めるべきじゃないか。会社を起こしたいんだという方を集めるべきじゃないか。これを全国に発信していくべきじゃないかと思います。そういうお考えは町としてはあるでしょうか。

議 長

町長。

町

長

おっしゃるとおりで、町に来たらいろいろな起業したいという方もいますけど、起業を手伝いたいとかそういう方もいらっしゃいます。ですから、そういったものを今後応援していこうというようなことで今考えておりますんで、ぜひ山北町に来て起業するもいいし、あるいは起業する仲間と一緒にやるというか手伝うのもいいと思いますんで、そういった方が多くなれば、町が活性化するんじゃないかというふうに思っております。

議

長

池谷仁宏議員。

2 番 池

谷

山北町が足柄上郡5町で考えますと、他町よりも少し強い部分がございますして、それは金融機関なんですね。金融機関が四つあるということです。横浜銀行、さがみ信用金庫、郵便局、JA。この四つの金融機関がある。横浜銀行につきましては、山北町と松田にしか支店がございません。ATMに関しましては開成町にございますが、この金融機関が四つあるというのは非常に大きな強みです。特に起業される方においては、借入れ等も話がいくつか持ってけるわけですね。そうした点からも、この町で起業することはほかの町よりも少し有利であると私は考えます。

またその中で、この町で仕事をしたいんだ、事業を起こしたいんだという方に、いくつかやはり起業される前に条件をいろいろつけておくべきだと私は思います。何でも来てくれ来てくれではなく、こちらはこうしたい人たちに来ていただき、この町の活性化をしたいんだ。その際に、例えば必ず商工会には加入してくださいですとか、45歳以下の事業者であれば青年部には加

入してください。女性であれば女性部に加入してください。そして、これは無理ではなくこちらからやってほしいではなく、できるだけ地域活動に参加してほしい。そして可能であれば、消防団等のボランティアにも参加してほしいというようなことを町が発信して、それを受け入れるような事業者、新たに事業を起こしたいという方を呼び寄せるほうが、私は一番確実な答えにつながっていくのではないかと思っているんですね。

こうしたことにより一体何が望めるのかというのが、町の一般財源でもあります法人住民税。これを少しでも拡充していこうという考えをリンクさせながら定住対策をしていってはどうかと思うんですが、その点はいかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、非常に同じような考えは私ももともと持ってまして、当然町が仮にそれを助成する、あるいは援助するというと必須条件としては商工会に入らなければやりませんというふうになると思います。それから、ほかの条件についてはそう簡単にはいかないというふうに思いますけれども、その中で、やはり今私のほうでよく東京の事業所へ行ってるんですけど、山北町はフルに営業していただかなくても、例えば土日だけ、まずやりませんか。営業しませんかと。そういうような提案もしております。

そういった中で、どのような、何ていうんですか、サポートができるか。なかなか法人税とかについては難しいところはかなりありますけども、いろんな意味でサポートができるのであれば様々な方法を使って、山北町に起業するんでもいいし、あるいは支店を持っていただくんでもいいし、そういうようなことができれば、町で今までなかったものが生まれるということですから、非常にほかから見れば、逆に言うとライバルが少ないところなんですね。普通どこへ行っても似たような御商売の人がいて競合し合うんですけど、山北町は幸いにしてというんですか、そういった企業はそんなに多くないということで、ちょっとした事業を選べばあまり競合しないというところがございまして、ぜひ山北町に来て起業していただければ大変ありがたいなと思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷

非常にいい答弁をいただきまして、ありがとうございます。

この町の起業をされる、この町で会社を起こす、個人で事業を行う。この際に、ここに住んでくれでは実はないんですね。この町に本店所在地として事業を立ち上げてほしいということです。ここにこの事業を立ち上げた方が、お住まいが例えば伊勢原ですとかこの近隣の市町村でも構わないわけですね。将来的に、この際にいくつか、先ほどもいくつか条件をつけるべきだというふうなお話をさせてもらいましたが、必ず3年は、もしくは5年は本店所在地をここにしてくださいよというお話をしていく。そうすると、事業者というのは、もうそこに根づいていくわけですね。何が起こるか。家族が入ってくるわけです。いろんな方が入ってくるわけです。これが長い目を見た際に非常に必要な人口増につながるだろうと私は思っておりますので、ぜひその辺も踏まえて取り組んでいっていただきたいと思います。

また、定住の一環としまして空き家の対策ですね。この空き家に対しまして、空き家に住んでくれではなく、例えばシェアオフィスのようなものを立ち上げていく。もしくは、大手の企業と連携をして、テレワークの拠点にしていく。こういったものも私は手だと思うんですね。では、どこどのようにやっていくか。もし町のほうでお考えがあるようでしたらお教えてください。

議 長

町長。

町

長

私のほうで、国のほうの統計数字の中でRESASがございます。その中で、山北町は2次産業が非常に多いというか、工場とか様々なものがあって、その中での一つとしては、やはり工場の中にお勤めになる人がかなりの数字、町外から来ております。この人たちをどのように関係人口の中に取り組みでいくかというのが非常に大事なことだろうというふうに思います。

例えばなかなか難しいのは期間が短い、新東名ですと5,000人から7,000人ぐらいが町外から来てるわけですね。しかし、みんな住民票はほかのところにございます。こういうような人は実際工事が終われば、またお戻りになってしまうということで難しいんですけども、ずっと工場に勤めてらっしゃる方も相当いらっしゃいます。そういったような人をどのように、まあ住んでもらうというのはちょっと簡単ではないというふうに思っておりますけども、情報を提供して、どういうふうにもちづくりに参加していただけるかという

ことも大事なことだろうというふうに思いますし、先ほどの、企業ですから別に自分の本社が伊勢原にあらうと、山北で事業を起こしていただくという事は非常にありがたいなというふうには思いますんで、そういった様々な今の山北町の実情を踏まえた上でいろんな方法がとれるのではないかとというふうに思っておりますんで、ぜひそういったいろいろな統計上の情報というのもございますので、それらの人にフォーカスしながら山北町はこういう人に来てほしいというのが明確に出せれば一番いいのではないかとというふうに考えております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 大手企業と連携してのテレワークの拠点と少し触れさせていただいたんですが、私はこのように考えます。今、山北町は非常にこの丹沢湖周辺の皆さんの問題等も多々ある中で、やはり水源地交流をされている、この川崎市です。川崎市では非常に年に3回、川崎の皆さん来られて山北の山に入っていて間伐をしたりと水源地交流を図っているところです。この川崎を今度は市と町、行政同士のつながりではなく、企業同士のつながりというのもあってもいいと思うんですね。だからこそ、空き家をテレワークの拠点として、まずは川崎にある企業さんどうですかというような投げかけをすることにより、この行政と民間という2本の柱ができてくると。こういうふうな形を進めていくことが私は非常に重要であろうと感じております。

また、先ほど和田議員の質問の際に、町長の御答弁の中で学園都市のお話が出ました。最先端の企業を誘致したいというようなお話がございましたが、これは実現する用意を言っているんですか。

議 長 町長。

町 長 最先端というのは、もう既にトヤマさんは来ていただいておりますけども、ほかにそういったような学園として、今のところは駒澤大学さんが合宿場を町にオファーが来ておりますし、それ以外にも今、鹿島山北高校のほうの何ていうんですか、生徒さんの分類を見ますと沖縄もいらっしゃるということで、そういったようないろんなデータに基づいて、それらを包括して呼び込んでいただくというようなことがこれから大事ではないかなというふうに思っております。

ですから、単純に何ていうんですか。見込みがあるとかないとかというのは、まだ完全に今あるのは駒沢さんあたりからのオファーをいただいておりますけども、それ以外のものについてはいろいろな中で発信をしながらやっていきたいなというふうに思っておりますんで、やはりこれだけ何ていうんですか、インターネットの世界になるとそこに住んでなくてもできるというようなことですので、そういう意味では、山北町というのは非常に魅力があるところだというふうに思っておりますんで、ぜひそういったような方向に進めたらいいなというふうに思ってます。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 ありがとうございます。

ちょっと先ほど最先端というお話があったので、私今日は触れる気がなかったんですが、内閣府が発表しましたムーンショット計画ですね。2050年までに不可能と思われる事柄を達成することにより、非常に大きな人類に幸福をもたらすというような話が、これ内閣府から発表されているわけです。ぜひ、こうした先ほども第6次総合計画のお話がありました。10年先を見据えながらも、もうその先もしっかりと見る中でまちづくりを進めていくことが必要であろうと考えますので、ぜひ多くの情報を得ながら、今後もまちづくりをしていただければと思います。

また、併せて最後に2月11日の「リ・古典」、町長の出演を楽しみにしておりますので、これをもちまして、以上で質問を終えさせていただきます。